

(大口市羽月下殿)

位置と環境

大口市街地より宮之城・川内方面への県道を南下した約5kmの所に曾木の滝公園（大住地下式板石積石室墓群）への分岐点があるが、その分岐点の南約200m県道沿い西側に所在する。現在、大口南中学校が建設され、中学校前庭に保存されている。

調査の経緯

焼山古墳は、終戦直後（1946年～1948年）に寺師見國を中心に4基の石室が調査されている。1号・2号石室墓は寺師見國が、3号石室墓は寺師と樋口隆康、4号は曾野寿彦・中川成夫・佐藤達夫らが調査している。そして、樋口隆康によってこの種の古墳に「地下式板石積石室墓」の名称が付けられた。その後、1959年1月に寺師見國らによって石室墓7基が調査され、計11基の石室墓が確認された。

1970年頃から当該遺跡付近に、統合中学校建設の計画（現大口南中学校）がもちあがり、遺跡周辺の踏査の結果、90基以上の石室墓の存在が確認された。その結果、校舎建設位置を変更し、石室墓群は現状のまま保存されている。

遺構と遺物

石室墓は計11基が調査されている。石室の形状および副葬品は表のとおりである。

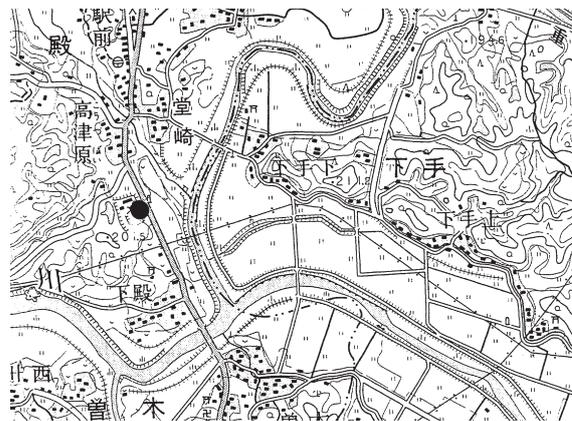
石室墓の形状は円形から楕円形を呈するが、長径の最小のものは1.1mで、長径の最大は1.65mを測る。短径の最小のものは0.65mで、短径の最大は1.65mを測る。また、最小の石室墓は8号で1.35m×0.65mを測り、最大の石室墓は11号で1.55m×1.43mを測る。

調査された計11基の石室墓には、表のとおり全てに鉄器（鉄鏃・鉄剣）が出土している。

特徴

全ての石室に鉄器の副葬品がみられ、しかも2号石室墓のように16本のものもあり、近隣の大住古墳群と比較すると副葬品の多い点が注目される。

石室墓の構造は大住地下式石積石室墓群と比べて粗雑で、板石でない自然石が使われているものがあ



第1図 焼山地下式板石積石室墓の位置

って、そのために方形あるいは多角形をなすものがある

資料の所在

出土遺物は、鹿児島県歴史資料センター黎明館寄託収蔵されている。

参考文献

寺師見國1959「鹿児島県大口市大住・焼山石室古墳」『鹿児島県文化財報告書』6集

(新東晃一)

第1表 焼山地下式板石積石室墓一覧

石室	東西×南北(m)	底(地表下m)	副葬品	
1号	1.10	1.05	1.15	鉄鏃4本
2号	1.60	1.80	1.00	鉄鏃16本
3号	1.55	1.40	1.08	鉄鏃3本
4号	1.65	1.35	1.40	鉄鏃9本
5号	1.53	1.36	1.20	鉄鏃6本・鉄剣2本・頭蓋片
6号	1.30	0.82	1.40	鉄鏃9本
7号	1.54	1.15	1.15	鉄鏃5本
8号	1.35	0.65	1.25	鉄鏃1本
9号	1.43	1.15	1.60	鉄鏃5本
10号	1.20	1.02	1.03	鉄鏃3本
11号	1.55	1.43	0.97	鉄鏃3本



写真1 焼山地下式板石積石室墓(5号)